

ヘンデル盤を聴く(1)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(1)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行いバッハとテレマンのアナログ盤を聴き直してきました。今回はヘンデル盤を聴いてみることにしました。

2. ヘンデルのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のヘンデル盤を聴いていきます

ERATO RE-1066-RE

G.F.ヘンデル ハープ協奏曲変ロ長調
フルート協奏曲へ著調
合奏協奏曲ト長調
合奏協奏曲ハ長調
合奏協奏曲変ロ長調

ジャン・フランソワ・パイヤール指揮パイヤール室内管弦楽団

CBS Sony FCCA-57

G.F.ヘンデル 組曲「水上の音楽」
組曲「王宮の花火」

ユージン・オーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団

3. ヘンデルのアナログ盤の試聴結果

ERATO 盤のハープ協奏曲その他の協奏曲は、RIAA、R、第4時定数 Mid で聴いていきます。

ハープ協奏曲は、お馴染みの曲でハープの優雅で柔らかい響きが聴けます。

フルート協奏曲は、これもフルートの軽快で柔らかい響きが聴けます。

三つの合奏協奏曲は、どれもヘンデルらしい明るくすっきりとした合奏協奏曲です。弦も木管も通奏低音も明晰です。

CBS Sony 盤の組曲「水上の音楽」と「王宮の花火」は、Columbia、R、第4時定数 High と Columbia、R、第4時定数 Low がありますので聴き比べていきます。

「水上の音楽」は、盤質はよくありませんが、Columbia、R、第4時定数 High と Columbia、R、第4時定数 Low では、前者は音の焦点が合い、後者はぼやけます。前者は国内プレス、後者は本国プレスの特性であり、クレジットを見ても国内制作のようです。演奏は、いかにも米国のオーケストラのようです。特に単独でも演奏される終章は派手な演奏です。

「王宮の花火」は、Columbia、R、第4時定数 High で聴いていきましたが、「水上の音楽」と同様に、編成の大きな米国のオーケストラの演奏ですので、バロック音楽とはかけはなれた印象です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)、スピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上